

令和3年8月2日 メルボルン交流抄

オーストラリアの弦音（ツルネ）

今回はオーストラリアで弓道の普及に尽力されているメルボルン弓道会会長 Gavin Downs 氏を紹介します。

Downs 氏が初代会長を務めるメルボルン弓道会（MKK）は、2013年に発足し8年目を迎えています。オーストラリアで最初に発足し、全豪で最大のメンバー数を有数する弓道クラブです。そして、28メートルの距離での前練習ができる本格的な稽古を行っているクラブでもあります。

MKK は、非営利の弓道クラブとして、国際弓道連盟の傘下にて活動を行っています。メンバーは例年、国際弓道連盟主催のアジアオセアニア講習会にて、講習と昇段審査を受けることができます。

Downs 氏は礼儀正しく泰然自若とした方で、初めてお会いした際にも、近くに立つだけで独特の「気」が感じられました。Downs 氏は日本にお住まいになられたことはないのですが、日本に武者修行に行き、範士八段の先生から集中的に指導を受けるなどの努力によって、現在、四段でおられます。因みにオーストラリアには、四段以上の有段者がまだ3人しかいないそうです。

Downs 氏によれば弓道は、単に矢を的に中（あ）てるか否かではなく、礼儀、作法に沿って行われる日本の伝統武道で、茶道、華道、書道、剣道などにも通ずるものがあるそうです。弓道は最も古い古武道で、武道という言葉は元は「弓の道」であったそうです。現代弓道の精神は、「真善美」（弓道の最高目標）であり、「和」と「礼」が重んじられます。

メルボルンには常設の弓道場がありません。そのため、毎週日曜日の朝9時半から3時間、ビクトリア大学の体育館を借りて稽古をされています。ある日曜日に見学に行くと、有段者の Downs 氏らが指導に当たっており、20人ほどの会員が熱心に稽古に励んでいました。

会員は常に30名前後、弓道を始めたい初心者向けに、例年入門コースを開催しているそうです。残念ながら、昨年よりコースの開催を見合わせており、現在60名以上の

方々が開催待ちとのこと。 (最新情報はサイトでチェック願います：
<https://melbournekyudo.org.au/>)。数年前に放映された、アニメ「ツルネー風舞高校弓道部一」を見て興味を持たれた方も多く、前より少しずつ弓道が知られているようです。

オーストラリアでも何十年と普及が行なわれてきた剣道や柔道などと違い、弓道普及活動はここ8年で、まさにその中心的役割を担ったのが Downs 氏でした。弓道ができる施設を探すのが特に難しく、ビクトリア大学の協力を得て、なんとか稽古場所が確保できたそうです。彼の希望は、もっと稽古ができる常設の弓道場を確保することです。週1回3時間、その間に準備から指導、片付けまでしなくてはならず、自分自身の稽古の時間がなかなか取れないのが、悩みの種だそうです。

弓道の(今風の)特徴の一つは、オンラインで対戦ができることです。実際にコンタクトがある剣道や柔道ではオンライン対戦はできませんが、弓道では、条件を同じにすれば、それぞれ弓を引いて的中の数を競うことができます。実際、MKKは、他州そして他国の弓道クラブとオンライン大会も行っているそうです。今後、オンラインでの指導などが受けられるような環境になっていくかもしれません。そうなれば、弓道がオーストラリアでも、もっと人気が出て、より多くの人々の日本の伝統文化への理解が深まることに繋がると思います。我々総領事館と致しましても、日本伝統文化への理解促進のためにも MKK の活動にできるだけの協力をしていきたいと思います。

島田順二



